

第6回清瀬市商工振興計画策定委員会 議事要旨

【開催日時等】

日時：令和7年8月20日（水）午前10時から午前11時30分

場所：清瀬市役所3階 会見室

【出席委員】

内野委員、赤坂委員、里見委員、大嶺委員、山崎委員、野島委員、松村委員、八代田委員、森田委員、根岸委員、小寺委員、前川委員、大野委員、戸野委員
事務局：産業振興課長、産業振興課長補佐、商工係長、商工係主任

【配布資料】

資料1 清瀬市商工振興計画素案に係る委員からの意見について

資料2 第2次清瀬市商工振興計画素案

資料3 清瀬市商工振興計画策定スケジュール

【議事】

1. 開会

2. 議題

（1）第6回清瀬市商工振興計画庁内PTの開催について（報告）

8月5日に開催された第6回庁内PTの会議について報告。会議内では第5回策定委員会の報告と今後のスケジュールについて説明し、今後パブリックコメント等による意見を踏まえ、軽微な修正等があった場合は事務局に一任していただく旨、メンバーより了承を得た。

（2）各委員からの計画素案に関する意見について

資料1に基づき、素案に対する各委員からの意見及び意見に対する事務局の見解を事務局より説明。

（委員からの意見・質疑）

委員長：広域ビジネスチャンスとして、現在市では西武線沿線サミットの自治体との連携がなされている。商工会でも北多摩地域の5市と連携し、地域通貨やフェスティバル、ポイント活用などの取組みを行っている。本計画に合わせ、商工会としても市や観光協会とも取り組んでいく

い。現時点で計画に具体的な取組みを記載するのは難しいが、今後計画見直しの際にもう少し具体性を持たせられると良い。

委員：市民目線からすると分かりにくい部分があるので、具体的な取り組みなどを上げた方が良いのではないかと感じた。

委員長：前回の計画策定よりも具体性のある内容になっていると思う。パブリックコメントでも何かご意見が出てくるかもしれない。

委員：これまで具体的な話が見えていなかったが、今回の計画の中で第5次長期総合計画における実行計画で事業の詳細について掲載し、ローリングも行うとの事だったので、そこで本計画の内容がより明確になるのではないかと。

委員長：長期総合計画や未来構想ビジョンなどでも清瀬駅北口再開発や地場産品、新製品の開発なども出てくると思う。

(3) 清瀬市商工振興計画策定スケジュールについて

今後のスケジュールについて改めて事務局より説明。

本委員会は本日で最終。今回の素案を基に、8月の庁議、9月の市議会にて説明後、パブリックコメントを行う。パブリックコメントでのご意見に対し、軽微な修正については事務局預かりとさせていただく。大きな修正が必要な場合、改めて策定委員会を開催させていただく可能性もある。

(委員からの意見・質疑)

委員：パブリックコメントの周知方法は。

事務局：市報、市ホームページ、各公共施設での閲覧により、広く意見を募る。

委員：意見の提出方法は。

事務局：メールやホームページのほか、郵送や窓口などによる提出も受け付ける。市報や閲覧用の冊子に掲載したQRコードから読み込んでホームページに繋がるようにする予定。

委員：大体同じ方がパブリックコメントで意見を出す事が多いと聞く。特定

の人だと同じ視点になりがちなので、出来るだけ沢山の人から意見をもらえると良い。

委員長：法案や条例などと比べて計画の方がいろんな方が意見を出しやすいように感じる。

委員：庁内のデジタルモニターに計画の本文を流すのは難しいか。

委員長：広告枠などの関係から難しいと思う。

委員：パブリックコメントで出た意見は他の人も見られるのか。

事務局：ご意見とそれに対する市の回答を公表する。本計画のホームページからパブリックコメントのページをリンクさせることもできる。

委員：ホームページは自分から関心を持って見に行かなければ情報として入ってこない。パブリックコメントはプッシュ型ではない。各家庭で情報を手に入れられるのは主に市報だけ。タイミングがずれると意見を提出する前に募集期限が過ぎてしまうのでは。

※プッシュ型：マーケティング用語で企業などが特定の顧客などに対し、積極的にアプローチする手法。

事務局：パブリックコメント募集は市報10月1日号に掲載する。募集期間は10月1日から10月末日まで。9月はパブリックコメント準備期間としている。11月の中旬までには市の回答まで公表できるよう勧めていく予定。

委員長：プッシュ型の周知方法はないか。

事務局：メール一斉送信や SNS などが活用できれば可能。関係部署と調整していきたい。

委員：前回計画策定の際、パブリックコメントで提出された意見の件数は。

事務局：意見としては18件。パブリックコメントの中では多い件数かと思う。

委員長：何もしなければ縮小されていく一方。各自治体との連携や、商店街同士のつながりを深めて行かなければならない。各委員他にご意見があれば伺いたい。

委員：学生は普段こういった場に参加することは少ないが、SNS などは見ると思う。SNS を積極的に活用してもらえると良い反響が得られるのでは。

委員：素案の p.47 の推進体制にある各主体から、今後具体的な施策が出てくると思う。支援機関としても計画の今後 10 年に向け、協力していきたい。

委員：計画の実現にあたっては、地域の力を活用し、課題を解決していく必要があると感じている。関係機関として情報共有していきたい。

委員：今年の 10 月から第 4 次農業振興計画の策定が始まる。農産物を使って新たな商品開発などについても盛り込んでいく予定。農地は減っているが、付加価値は上がっている。具体的で若い人たちに希望を持って活躍してもらえるような計画内容にしていきたい。商工振興計画とも絡めた内容で策定する必要があると思っている。

委員：自分の周りではパブリックコメントで意見を提出したという話を聞いたことが無い。各委員の知り合いの方にも声を掛けていただき、広く意見を集めていけると良い。

委員：古い商店街は設立当時の 1 代目、場合によっては 2 代目も既にはない店舗が多い。代々続いている店舗はわずかになっている。チェーン店などは本部の許可取りが必要になるため、会費は出しても会議に参加できないという事が多い。理事も少なく、イベントなどができる余力がなくなっている。言わば萌芽更新の時期なのだと感じる。若い世代が育って行けばまた復活するのではと思っている。

委員：どこの商店街も同じような悩みを抱えている。役員を交代しても前任が引き続き活動せざるを得ない状況にある。清瀬市にも観光協会が設立されたので、これを機に商店街の活動と連携が図れると良い。また、中央公園の改修に伴い、清瀬高校を拠点としたあじさいロードにもう少し力を入れられると活気づくと思う。社会事業大学のボランティア

サークルさんさんさんも地域で活躍してくれている。

委員：若い世代の方達にはぜひ清瀬で事業を始めてほしい。そのためには地域の特性を活かした盛り上がりが必要だと思う。清瀬市は農業も商業ももっと発展できる、ポテンシャルを持った街だと思う。

委員：約7万5千人の市民の方にも本委員会で出たような課題を認識してもらいたい。商店街内だけの話し合いだけで終わらず、地域との交流によって事業者の取組を知ってもらう機会があると良い。消費者側にはお店が無くなってから話題にするのではなく、普段から市内のお店について考えてもらう必要があると強く感じた。

委員：人口減少は避けられない。地域の活性化に向けて商工振興は必須。計画の実現に向け、各主体が役割に取り組んでいかなければならない。

3. その他

本日にて策定委員会は終了するが、今後の動きについて委員の皆様には引き続き情報共有していく。